

「家庭教育に関するアンケート」集計結果

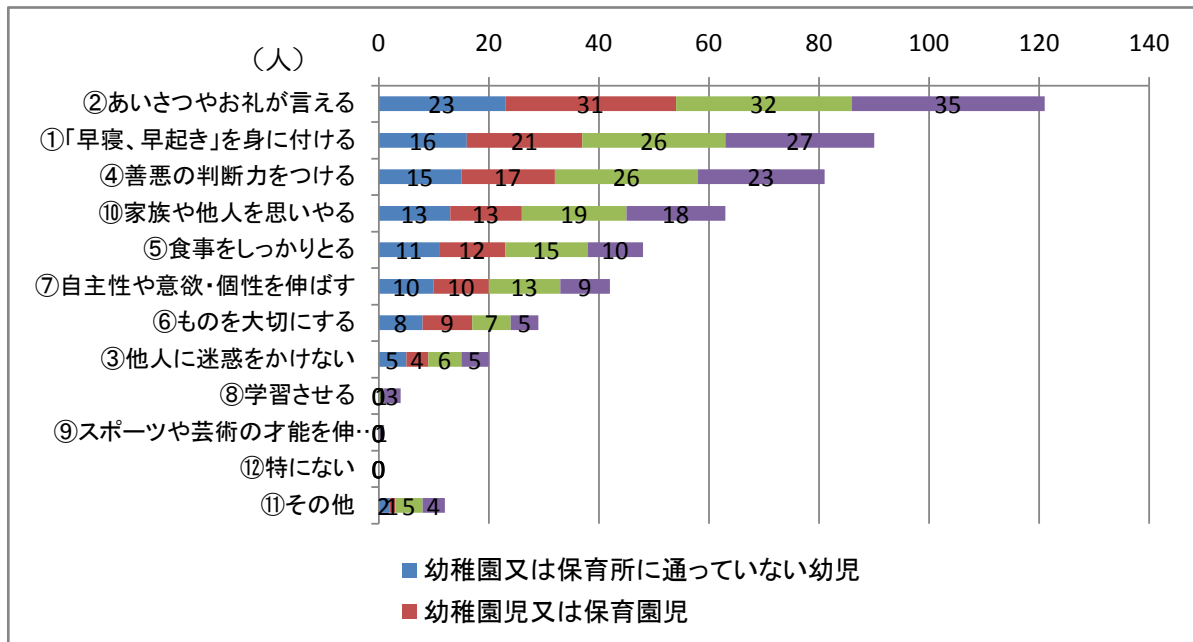
■実施日	平成20年7月29日～8月28日		
■調査対象	後志管内20市町村の保護者～計200名（各市町村へ10部ずつ配布）		
		各市町村配布数	全市町村配布数
配布内訳	幼稚園又は保育所に通っていない幼児をもつ保護者	2	40
	幼稚園児又は保育園児をもつ保護者	2	40
	小学校1年生～3年生をもつ保護者	3	60
	小学校4年生～6年生をもつ保護者	3	60
■回答率	85%（対象者200名中、170名回答）		
	※ 回答者の内訳は、下記1のとおり		

以下のアンケート集計結果をもとに、平成20年11月27～28日に開催された「平成20年度後志管内社会教育主事等研修会並びに第2回社会教育主事等会議」の出席者で各設問の集計結果の傾向分析をし、傾向から読み取れるものを検証しました。

1. あなたのお子さんの年代をお答えください

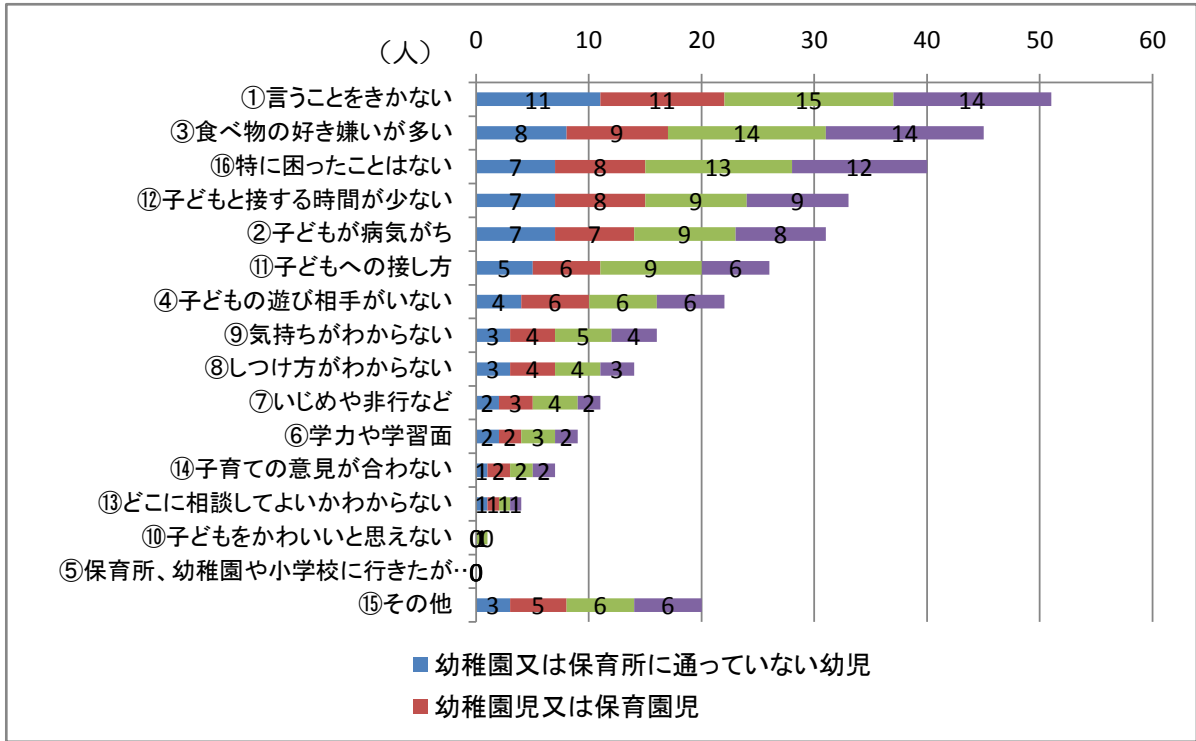
幼稚園又は保育所に通っていない幼児	36人
幼稚園児又は保育園児	38人
小学校1年生～3年生	48人
小学校4年生～6年生	48人
合計	170人

2. お子さんを育てるうえで、心がけていることはなんですか？（主なもの3つまで○）



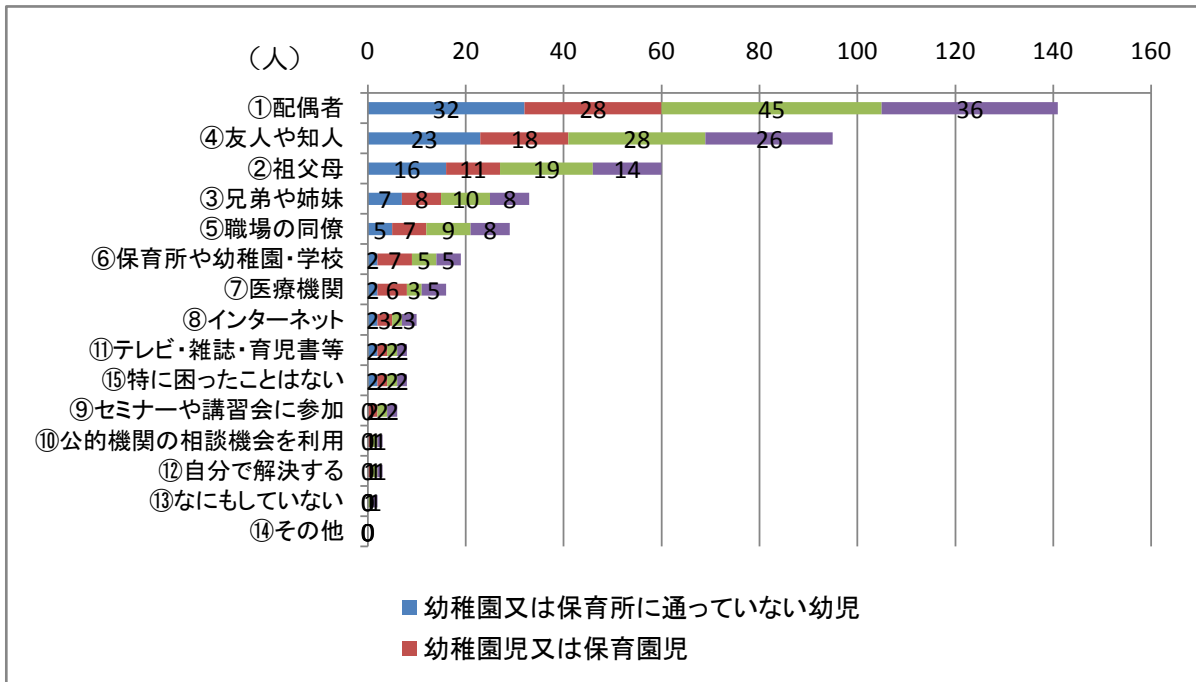
傾 向	左記の傾向から何が読み取れるか
<p>■全般的に子どもに対する期待度が大きすぎる。どの年代別に同じ傾向が出ている。</p>	<p>⇒全般的に子どもに対する期待度が大きすぎる。どの年代別に同じ傾向が出ている。</p>
<p>■②あいさつやお礼、③思いやりなど、対人関係への関心度が高い。</p>	<p>⇒集団生活を教わることの少ない幼稚園や保育園に通っていない幼児に対しは、礼儀の前に①「早寝、早起き」、⑤食事を教えるのが先決ではないか。</p> <p>⇒礼儀については、親から教わることと同時に、周りから学ぶことも多い。つながりが少なくなっている対人関係の希薄化の裏付けでもある。</p>
<p>■⑧学習、⑨スポーツ・芸術を伸ばすことよりも生活態度、習慣面が上位である。</p>	<p>⇒親は、学力偏重の中で育った世代である。子どもには自由にのびのびと育てたいと期待を寄せているのではないか。</p> <p>⇒家庭の教育力の低下を示している。</p>

3. お子さんを育てるうえで、悩んだり、困ったりすること（したこと）はなんですか？
（主なもの3つまで○）



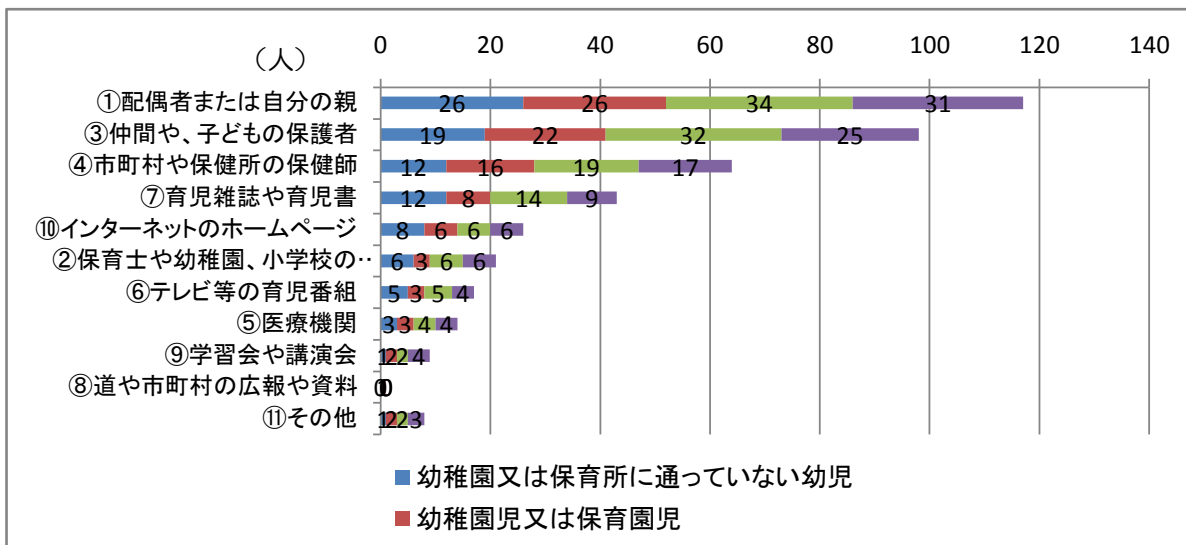
傾 向	左記の傾向から何が読み取れるか
■子育てに真剣さが感じられない。①言うことをきかない、⑪子どもへの接し方、⑩困ったことはない...	⇒本音で接する機会が少ないと言える。 ⇒子どもの行動に対して悩むより、親自身が子どもとどう接するか分かっていないようである。

4. お子さんを育てるうえで、悩んだり困ったとき、あなたはどのように解決していますか？
（主なもの3つまで○）



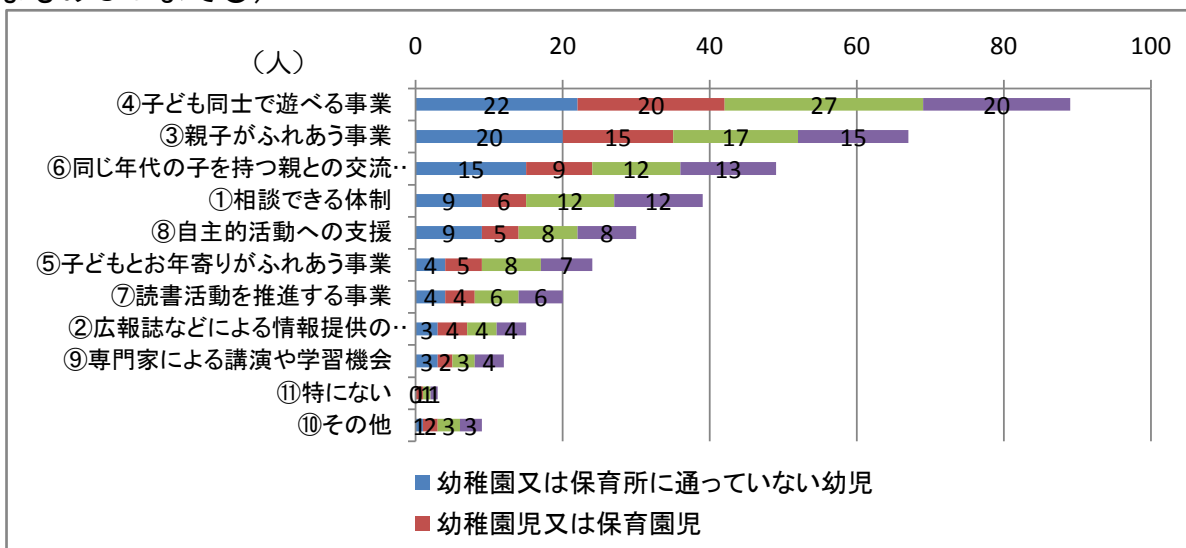
傾 向	左記の傾向から何が読み取れるか
■身近な人を頼る傾向がある。	⇒中でも、友人・知人が上位となっており、祖父母や地域の大人との接点が少ない現在の社会情勢や生活スタイルが原因なのだろう。
■⑧インターネットなどのメディアを頼るよりも人との接点が多い。	⇒人間的なつながりを望んでいるのではないか。

5. あなたは子育てに関する情報を主にどこから得ていますか？（主なもの3つまで○）



傾向	左記の傾向から何が読み取れるか
<ul style="list-style-type: none"> ■②保育士や幼稚園、学校の先生が思いのほか少ない。 ■身近な立場の人への依存が高い。 	<p>⇒前項の間4で、小学1～3年生の区分では、どの項目も他と比較しても、悩みごと・困りごとが増加しています。小学校入学や、保育園・幼稚園の入園がポイントとなってくると思われるので、情報発信も必要な手段と考えられる。</p> <p>⇒情報を得るにしても、生の声や体験談が有効。</p>

6. 今後、お子さん又はあなた自身にとって、どのようなサービスを期待しますか？（主なもの3つまで○）



傾向	左記の傾向から何が読み取れるか
<ul style="list-style-type: none"> ■自らの活動へのサポートというよりは、「こういう機会をつくって欲しい」と頼る傾向がある。 	<p>⇒参加体験交流型事業は、多くの市町村において取組まれていると認識しているが、情報が伝わっていないのか、もうちょっと数多くを望むのか、継続して欲しいという要望なのか。どちらにしても、ふれあいやコミュニケーションの大切さを感じていると思われる。</p>